笑顔がいっぱい！ 第10回 女性レクリエーション大会

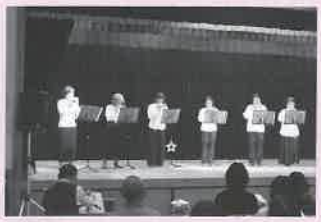
大山町女性団体連絡協議会主催の女性レクリエーション大会が9月19日に、大山農業者トレーニングセンターで、開かれました。180名以上の参加があり、「パン食い競走」「送って送って」「二人は迷コンビ!?」「じゃんけんポンでおたまちゃん」の競技で楽しい時間を過ごしました。

今回は節目となる第10回大会で、各地区が趣向を凝らした「素敵でショー！」では仮装や息の合った踊りを披露しました。御来屋婦人会は着付けを行い、今はあまり見られなくなった『嫁入り・婿入り』を再現しました。

参加者は日頃の忙しさを忘れて大いに笑い、体を動かし、親睦を深め、楽しい一日となりました。

▲素敵でショー！の一場面

名和公民館 サークル発表会



ステージ発表や作品の展示、バザーなど日頃のサークル活動の成果をぜひご覧ください。皆さんのお越しをお待ちしています。

◆日時　11月22日（日）9時30分～

◆場所　保健福祉センターなわ

◆問い合わせ先　名和公民館 ☎0859－54－2688

まちのたから（8）～文化財室通信～

「西明（さいみょう）の龍鐘」の巻

大山寺の宝物館「霊宝閣」の正面奥に古い梵鐘（ぼんしょう）が展示されています。この梵鐘は大山寺阿弥陀堂の横にあった鐘楼堂に掛けられていたもので、古い伝承から「西明の龍鐘」と呼ばれています。

大山寺西明院谷の圓流院住職で画僧としても知られた嵯然（とうぜん）が、弘化3年（1846）に、大山寺に伝わる民話・伝承を『大山雑記』に残しました。その中に「西明の龍鐘」の話が収められています。内容は次のとおりです。

「むかし、大山の麓の川の河口辺りに夜になると光るものがあった。この光が波の動きにしたがって動くので人々は怪しいと思い、網を海に入れて引き上げてみたところ、大きな釣鐘が上がってきた。その鐘の内側に古い阿弥陀如来像があり、夜に見えた光はこの仏像が発したものだったと分かり、人々はこの釣鐘と仏像を大山寺に寄進した。大山寺の僧侶らは一丈六尺の大きな阿弥陀如来坐像（前回紹介した阿弥陀如来坐像及両脇侍像の中尊）を造り、海から上がった古仏像を坐像の首の部分の中に納め、釣鐘は常行堂（現在の阿弥陀堂）につるして朝晩の時を告げるようにし、この川を阿弥陀川と名付け、この釣鐘を龍鐘と呼ぶようになった。」

これと同様の話が寛保2年（1742）の地誌『伯耆民談記』にも収められており、よく知られた話だったようです。

この梵鐘は総高117㎝、口径73・2㎝、重量393kgで、撞き座の位置、口径に対する厚さの比率、竜頭の形式などから、平安時代後期の様相を伝える鎌倉時代の作と考えられています。阿弥陀如来坐像は平安時代後期の天承元年（1131）の作なので、梵鐘の制作年代とは少し時期差があるようです。大山寺における阿弥陀信仰が、周辺地域とつながって隆盛であったことを伺わせる伝承として、とても興味深い内容です。

県内では鳥取市の本願寺の梵鐘（平安初期）に次いで二番目に古いもので、昭和60年に鳥取県指定保護文化財に指定されています。

（人権・社会教育課文化財室）

▲大山寺に伝わる「西明の龍鐘」